

仏像とまぐわう夢を見ておりしときにかたえに何を見たりき
饅頭の類(たぐい) 思いてこの昼のあらき食欲をしずめむとする
女をば換うれば性欲兆すという生理学的根拠ありや否や
廚べに烏賊の嘴ぬきにつつ阿部定などのことも過(よぎ)りぬ
膺の無きゆえに女が慰謝料をとらるるといふこの世のことは
あけぐれの夢にあらわれわが陰(ほと)をたれかほとほとかなしみにけり
眼も魔羅も老いさらばえよわがものにはやもはやなりてしまえよ
生殖のために皮膚融合する深海魚セラチアヌスのことを厭いぬ
昼ふけの社の森にひつそりと立ちて自慰する男愛(かな)しき
卵巣を吊りて歩めるおんならよ風に竹群の竹は声あぐ
おのもおのも「主人」をもつを幸せの範疇として疑わざるか
母系制社会くるべしや厠に屈(かが)みいて想像す

ひときれの魔羅と陰をば因(もと)として床惚れといふことのうれしさ
昼孀(ひるづま)のよどめるごとき肉叢が塵芥の火に華やぎて見ゆ
まぐわいの快を開発したりしは猿人かあるいは類人猿か
生殖器欠損動物なんぞと言ふ女をうとむ女ありける
このあした枕の布に絡まれるみじかき陰の毛をひろいあぐ
つねに娼婦のころももちて生きたしと直截にして嘘はなけれど
雲くらく走れる空にいくたびも思い出づ「女は怖しき職業なり」
男ゆえ言いていくばくたのしきらし人類最古の職業という語
自立する女ふゆるを危ぶみて母性を頌(たた)ういつの時代も
みどりごのやわき頭を掌につつめど母性湧くにもあらず
ファントムを引削槍(ひつそぎやり)もて墜とさむと力み返りているのか知
れず

手の技(わざ)につむぐ言の葉言の葉が天の鴉片であればよけむに
やみがたく權威を欲りらておりしかな鯉のごとかる女(め)の肉躰は
齒の生えている女陰こそたのしけれ井戸覗きたる首ひきあげて
たそがれのはくもくれんを嘴がみぎひだりに裂きて啄む
聖処女の腹部剖(ひら)けばむらさきの子宮けぶれる夏のゆうぐれ

今年よく実るあんずは人妻のごとく匂えれ熟みて腐れり
夫婦は同居すべしまぐわいなすべしといずれの莫迦が掟てたりけむ
覗きこむ鏡のなかに発情をしているしるし口紅をひく
身を尽くし身を尽くせよとひさかたのあめのひかりに糞転しは
子宮にい物考うる女とぞついにふぐりは嘆かうらしも
おととしの冬にけむりとなりにけり半身不随の陰茎一つ
規矩準繩もて立つひとの陰囊を断ちにつるゆめのゆめのゆめの…
ファルロス飾れるものはあなあわれついの腐肉を掟てたりける
水勢を背にしてドアを出でむとす「女陰(ほと)の中に男ほろびて…」

女陰(ほと)の中に男ほろびて入りゆけり 堀井春一郎
結婚は幸福への道と説きよこす一男子(なんし)はた概念のお化け